

堺「市政チェック学習会」に参加する

中百舌鳥近くの堺市産業振興センターで開催された、市政を刷新し清潔な市政を取り戻す市民 1000 人委員会主催「第 1 回市政チェック学習会」に参加した。182 名の市民が参加して、立ち見も出るほどで熱気に包まれていた。この会場に来たのは、5 月の 1000 人委員会発足の集いに続いて、2 度目である。主催者挨拶のあと、写真のように 6 月の堺市長選で奮闘した野村友昭さんが、「永藤市政をどう評価するか」と題して講演した。野村さんの話を初めて聴いたが、なかなか迫力があり惹きつけるものがあった。



事務局の前田純一さんが「スタート 4 ヶ月余の永藤市政」について、①都構想「先取り」へ踏み出す、②「緊縮財政」への方向転換、③事業見直し・第一弾、などの問題を提起した。委員会のもとに編成された各調査チームより、古墳ガイダンス施設・公共交通・府大/市大統合問題について事例報告があった。そのあと、市会議員からコメント、参加者による質問・意見表明があった。多くの発言がつづいたが、若い参加者からも、維新と選挙、図書館などの施設について問題が出された。

2 時間にわたる密度の濃い企画により、多くのことを知り、学ぶことができた。5 月にも感じたが、さすが「自治都市」堺らしい市民主体の足もとからの取り組みだと感じた。集いに参加したのは、40 数年前に堺泉北コンビナートを共同で調査研究して、堺という都市への関心があるからだ。それだけでなく、大阪市廃止という「都」構想の住民投票に向けて、堺から学ぶことが多いと考えたことによる。

市民 1000 人委員会は、6 月 23 日「市長選挙 振り返りのつどい」で活動継続、7 月 30 日の第 5 回会議でその基本的方向を次のように確認した。市長選を通じて私たちが訴えたことを、今後も引き続き追求していく。*市民が勝ち取ってきた様々な成果を守り、さらに発展させていく。*これら施策を発展・拡充させるためにも、政令市を廃止し特別区に転落させる「都構想」は NO！

市民が勝ち取ってきた福祉や教育などの成果を守り、さらに発展させるという方向は、大阪市民にとっても大切な視点である。大阪市という大都市自治体、政令市を廃止して、4 つの特別区に解体すれば、これまでの制度やサービスが保証されるのか疑問である。重要な財源と権限が大阪府に吸い上げられ、人口は多いが脆弱な「自治体」になってしまう。大阪市民が堺市民の活動から学ぶことは多いはずだ。

もう一つは、市民 1000 人委員会の事務局は現役世代、若い人が中心となり、それを経験のある人が補佐していることである。市政情報の収集と多様な情報発信、各区ごと、調査チームの取り組みも参考になる。「自治都市」堺に学び、連携しながら、来年秋に予想される大阪市廃止の住民投票に向けて、私なりに取り組んでいきたい。

(2019年10月16日)